都立八王子小児病院における保健所後方医療機関としての役割について

研究協力者
松　尾　準　雄（都立八王子小児病院）

I. 目　　的

乳幼児健康診査は地域における乳幼児の健康管理の上で，極めて重要な位置を占めている。しかしながら，健診事後措置に関し，小児専門医療機関との連携において，未だ十分とは言い難い。これは小児専門医療機関の地域保健事業に対する受け入れの体制にも問題がある。そこで，われわれは都立八王子小児病院が地域保健事業にいかなる役割を演じることができか，また，このためには今後いかなる体制を整えるべきかについて検討した。

II. 方　　法

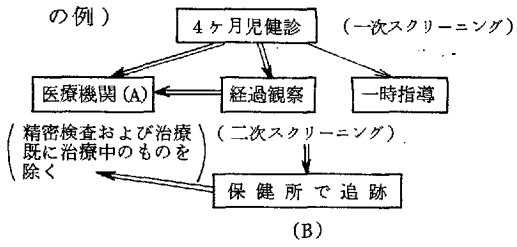
地域における乳幼児健診の実態を把握する目的で，八王子保健所において実施された乳児健診（（４ヶ月児）とその経過観察健診受診者を対象とし，大きく２群に分類して検討した。

(1)調査期間：１９８１年５月から12 月までの８ヶ月間の乳児健診およびその経過観察健診。

(2)対象：八王子保健所における乳児健診およびその経過観察健診受診者のうち，次の２群を対象とした：専門医療機関での精密検査および治療を必要とした群（Ａ群）と，保健所クリニックで追跡を必要とした群（Ｂ群）。

III. 結　　果

(1)　保健所における健診の流れ（八王子保健所の例）



(2)　Ａ群の所見別内訳と八王子小児病院開設初年度における受診者数（表１）。

疾病別にみると心音の異常から心疾患が疑われたものが，１６.９％と最も多く，次いでヘルニアを主とした外科的疾患，神経学的異常によるものが，それぞれ１３.６％と高い頻度を示していた。これに対し当院での受入れは，心疾患の疑い９０％と最も高く，外科疾患５０％，神経学的異常２５％であり，Ａ群全体の２４.６％に過ぎなかった。

(3)　Ｂ群の所見別内訳（表２）

Ｂ群の所見別内訳をみると，神経学的異常所見によるものが５２.２％と最も多く，次いで発育・育児に関するものが２３.９％であった。

また，周生期の異常のため追跡を行なっているものが7.５％認められた。

IV. 考　　察

八王子市の出生数は１９８０年人口動態統計から４９８０人，出生率１２.９であり，今回の調査期間内における八王子保健所の４ヶ月児健診の受診者は２６０３名であった。

当院は１９８１年４月小児病院として発足開設したが，規模的問題から小児綜合医療施設としての機能を有することができない。したがって，保健所後方医療機関としての使命を全面的に発揮することは不可能であるが，今後の整備により耳鼻科，皮ふ科，眼科的疾患を除いて，対応は可能である。

今回の調査により医療機関での精密検査，治療を必要としたものが５９例あり，このうち当院での対応が将来可能なものは４２例（７１.２％）である。しかしながら，調査期間内での当院での受け入れは４２例中１５例（３５.７％）であり，今後保健所との連携を強め，健診後事後措置に対応できる後方医療機関としての整備を進めたい。

今回の調査でborderline group と考えられるＢ群は保健所クリニックで追跡が行なわれているが，神経学的問題によるものが半数以上であり，これらに対して保健所へ専門医師を派遣し，追跡健診を行なうのが望ましいと考える。

当院は多摩西南地区における小児専門病院であるが，位置的問題および，規模的問題から，先づ八王子市を中心とした地域保健との結びつきを考えるべきであり，今回検討できなかったが，1才6ヶ月児健診，3才児健診についても，当院の機能上可能な範囲で後方医療機関としての役割を果すべきである。このための人的整備として，小児保健科（医師，保健婦，心理判定員）の設置を検討すべきものと考える。

V 結　　論

(1)八王子保健所の乳児健診（3～4ヶ月児）の実態を調査し，後方医療機関として当院が係わりをもつべき，精密検査および治療を要する症例について検討し，その約70％に対し，将来対応が可能であると思われた。

(2)保健所クリニックにおける追跡症例の検討から，当院の専門医師の派遣も考慮すべき点と思われた。

(3)今後，当院において地域小児保健との関連を密にするために小児保健科の設置を検討する必要があるものと思われた。　　（中村　敬）

表1. A群所見別内訳と八王子小児受診数（56：5～12）

所見		件数	八王子小児受診数
神経学的異常	反射の異常	1（1.7）	1
	発達のおくれ	2（34）	
	筋緊張の異常	3（51）	
	頭囲の異常	1（1.7）	
	けいれん	1（1.7）	1
発育（体重増加不良）		4（68）	
心疾患（心雑音）		10（169）	9
外科的疾患		8（136）	4
整形外科的疾患		2（34）	
形成外科的疾患		6（102）	
泌尿器疾患		2（34）	
耳鼻科的疾患（聴覚）		4（68）	
皮ふ科的疾患		7（119）	
眼科的疾患		6（102）	
その他		2（34）	
計		59（100）	15（24.6）

（　）％

表2. B群所見別内訳（56：5～12）

所見		件数	正常	追跡中	要精密
神経学的問題	反射の異常	13（19.4）	10	3	
	発達のおくれ	14（20.9）	9	4	1
	筋緊張の異常	2（3.0）	1	1	
	頭囲の異常	6（22.2）		5	1
発育	体重増加不良	12（17.9）	8	3	1
育児	栄養，養育	4（6.0）		4	
心疾患	心雑音	2（3.0）	1		1
整形外科	開排制限他	4（6.0）	1	2	
耳鼻科	聴覚他	4（6.0）	2	1	1
周生期	仮死の既往	1（1.5）		1	
	低出生体重児	4（6.0）		4	
その他	――	1（1.5）		1	
計		67	32	29	5

（4例重複）　（　）％

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

1.目的

乳幼児健康診査は地域における乳幼児の健康管理の上で,極めて重要な位置を占めている。しかしながら,健診事後措置に関し,小児専門医療機関との連携において,未だ十分とは言い難い。これは小児専門医療機関の地域保健事業に対する受け入れの体制にも問題がある。そこで,われわれは都立八王子小児病院が地域保健事業にいかなる役割を演じることができか,また,このためには今後いかなる体制を整えるべきかについて検討した。